

投 稿 規 定

1. 投稿は研究会員に限る。投稿原稿は未発表であること。ただし、既に口頭で発表し、その旨明記している場合は審査の対象となる。原稿の締切日は 9 月 30 日（必着）とする。
提出先：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40
日本大学文理学部英文学研究室内 日本大学英文学会
Email: esanu@chs.nihon-u.ac.jp
2. 投稿原稿は、「論文」、「研究ノート」および「書評」の 3 種類とする。「その(1)」、「その(2)」のような連載は認めない。論文は、独創的な知見を含む学術研究とし、研究ノートは、今後研究の発展が期待される新しい知見や問題提起を含む萌芽的研究とする。また、書評は数年以内に出版された英語文学および英語学に関する研究書（論文集を含む）を対象とする。
3. 原稿の長さ等は、以下の通りとする。
「論文」は A4 用紙を 37 文字×26 行で、15 枚以上 20 枚以内。「研究ノート」、「書評」は A4 用紙を 37 文字×26 行で、14 枚以内。「論文」、「研究ノート」および「書評」とともに、ポイントは、日本語論文の場合は 10.5、英語論文の場合は 12 とする。フォントは、日本語の場合には MS 明朝、英語の場合には Times New Roman とする。なお、枚数には註・図表・参考文献等すべてを含むものとする。
4. 投稿原稿および英語のアブストラクト（150語程度。書評は除く）は、紙媒体で 5 部、かつ電子媒体（Microsoft Word 形式）で 1 部提出すること。投稿原稿とは別に、題目、「論文」・「研究ノート」・「書評」の種別、投稿者氏名、所属、連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）を記した表紙 3 部を提出すること。「投稿論文」・「研究ノート」・「書評」およびアブストラクトの第 1 頁には論文題目のみを記し、投稿者氏名は明記しないこと。なお、謝辞および投稿者氏名が 特定できる情報は記さず、掲載決定後に追記する。
5. 英文（アブストラクトを含む）に関して、英語を母語としない投稿者は投稿前に英語母語話者によるチェックを受けること。
6. 掲載の採否は編集委員会が決定する。
7. 掲載の決定した論文等に関する著作権のうち複製権および公衆送信権は、日本大学英文学会に帰属する。著者は、掲載論文等を他に転載する場合には、日本大学英文学会の許諾を得なければならない。
8. 校正は再校まで執筆者が行うが、訂正は誤植に限ることとし、内容の加除・訂正は認めない。
9. 掲載論文・研究ノートおよび書評の執筆者用抜刷は 20 部とする。
10. 書式上の注意
 - イ. 和文の場合、読点は「、」、句点は「。」にする。
 - ロ. 副題はその前後をダッシュ「—」で囲む。

- ハ. 章立てに関しては半角のアラビア数字（算用数字）を用い、左寄せのうえピリオドをつける。
ニ. 引用文は原則として原文のみとする。
ホ. 外国の人名、地名、書名等は少なくとも初出の箇所て原名を書く。
ヘ. 註について

- ①原稿の末尾にまとめてつける。
②和文の場合は「註」、英文の場合は「Notes」とする。
③註番号のつけ方：上付きの数字を句読点の後に置く。丸括弧はつけない。

（例）「…とある。¹ ところがこの仮説によると、² 次のような…」

- ト. 引用の典拠明記は以下の例を参考のこと。

文学の場合：(Marcuse 125)

語学系（英語学・英語教育）の場合：(Marcuse 1975: 125)

- チ. 参考文献について

①和文の場合は「参考文献」など、英文の場合は「Works Cited」（文学）、
「References」（語学系）とする。

②参考文献の書き方は以下の例を参考にすること。

【文学】

・書物：

Silver, Lee M. *Remaking Eden: Cloning and Beyond in a Brave New World*.
New York: Avon, 1997.

・論文（学術雑誌）：

Barthelme, Frederick. "Architecture." *Kansas Quarterly* 13. 3-4 (1981):
77-92.

・論文（論文集など）：

Groom, Nick. "Forgery and Plagiarism." *A Companion to Literature
from Milton to Blake*. Ed. David Womersley. Oxford: Blackwell, 2000.
94-113.

【語学系】

・書物：

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvic. 1985.
A Comprehensive Grammar of the English Language. London: Longman.

・論文（学術雑誌）：

Declerck Renaat. 1984. " 'Pure Future' *Will* in *If*-Clause," *Lingua*
63: 279-312.

・論文（論文集など）：

Kroch, Anthony. 2000. "Syntactic change." In Mark Baltin and Chris
Collins (eds.), *The Handbook of Contemporary Syntactic Theory* (pp.
699-729). Oxford: Blackwell.

- リ. 上記以外の書式については既刊号を参照すること。